

医療系のシステム開発などを手掛けるMSドリーム(本社名古屋市中区那古野、浅野美香社長、電話052・715・9939)は、医療機関や介護施設向けにデータ消去サービスを始めた。同社が手掛ける一連のデータ消去プロセスについて、第三者機関が評価し、適正であれば、同社を介せずにも機関から発行証明書をクライアントに発行するのが特徴。データが適正に消去されているか確認が困難な状況に置かれているクライアントが安心して依頼できるようにする。

(倉科信吾)

データ消去サービス開始

MSドリーム 医療機関、介護施設向け 第三者機関による証明で



データ消去に取り組むエンジニア

パソコンを廃棄する際、適正なデータ消去がなされず個人情報流出するリスクがある。悪質な業者は、クライアントに対し虚偽の報告をした上で第三者に情報流すことも考えられる。

MSドリームは、このようなりスクを回避したい医療機関、介護施設、薬品メーカーに対し提案していく。同社が行うデータ消去プロセスは、すべてデータ適正調査研究などを推進している。ITシステム会社などECC(東京都)が検証し、適正だった場合に、ADEMSドリームは、医療機関向けに効率的な運用システムを提供すると同時に、個人情報保護の安全面でも医療機関をサポートする(浅野社長)方針だ。

同社に問題点を指摘する仕組みとなっている。ADECCは、第三者によるデータ適正消去発行に関する基準策定、情報提供、

「生存率」という
がん治療の「予後」に示された「希望」をもっと知ることで、希望が見えてきます。

「サバイバー生存率」をご存じだろうか。多くのがんでは診断されて治療を受けてから日がたつにつれ、その後も生きる確率は高くなる。それを数値で表現したものだ。がんが診断された人(サバイバー)や家族が状況を把握するのに役立つデータとして注目される。

がんサバイバー生存率

診断後、年と状況の

診療現場でよく使われる生存率は「5年相対生存率」。がんが診断された人を治療でどれだけ救えるかを表す数字で、がんが診断された人のうち5年後に生きている人の割合が、日本人全体で5年後に生きている人に比べ、どの程度かを示す。

がんの部位によって差があり、100%に近いほど治療で救えるがん、0%に近いほど治療で救いにくいがんであることを意味している。

最新の統計によると、2006~08年に何らかのがんと診断された人の5年相対生存率は男性が59%、女性が66%。

新潟、大の地域が約80万人。それを

ハイブリッド印刷

いのが大きな理由だった。

く言うとインキを印刷面に